

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部3年 沢田 慎也

特集：翔麗祭 ～ The sky is The limit ー無限の可能性ー～

vol.94

目次

特集：翔麗祭
青森ねぶた祭り参加
地域連携センターより

2

青森中央学院大学

4

- ・前学期学位記授与式
- ・創立記念運動会
- ・「むつ土曜塾」開講
- ・平成27年度国際産直プロジェクト
- ・「できるだし」とともに
- ・「選挙へGO!」の活動
- ・大地連携ワークショップ
- ・道の駅での就職体験
- ・台湾での体験型授業
- ・国際交流センターより
- ・「だし活」に参加して
- ・楽しい子育て・孫育てとりづる
- ・はっぴい
- ・基礎看護学実習Ⅰでの学び
- ・基礎看護学実習Ⅱでの学び
- ・サークルライフ
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学

10

- ・創立記念運動会
- ・「SSS」勉強会
- ・キャンパスで作ってみよう
- ・SESSIONS ON THE ARTS 2015
- ・「だし活しよう!」「できるだしダンス」
- ・健康いきいきフードフェスタ
- ・介護福祉士の魅力について
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園

14

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校

16

- ・ゆかたうん★あおもり 2015
- ・「職業実践専門課程」申請に向けて
- ・ALI ファッションショーコラボ
- ・青森県職業体験フェア 2015
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通

18

- ・ラーニングコモンズ学生チューターの整備
- ・学生選書ツアー開催
- ・横内地区まちづくり計画
- ・横内まつり参加
- ・学生公演開催!
- ・開催行事案内

翔麗祭 ~ The sky is The limit -無限の可能性- ~

9月19日(土) 20日(日) 開催



(撮影：学生記者 相馬 芹香・鳴海 しづの・沢田 慎也)

むつサテライトキャンパス覚書調印式、青森県消費者協会と連携協定締結

10月6日、むつ市と青森中央学院大学、弘前大学が共同で「むつサテライトキャンパス」を設置運営する旨の覚書調印式がむつ市で行われた。本学とむつ市は平成25年11月、弘前大学も平成27年7月にそれぞれ連携協定を締結している。今回の包括連携協定では、むつ市役所内にサテライトキャンパスを設け、三者によるむつサテライトキャンパス運営委員会が事業計画を決定することになった。これまでの取組みをさらに強化するとともに、お互いが協力して、高等教育機会の充実や滞在型学習の支援、地域産業振興に取組む活動拠点として、「むつサテライトキャンパス」を設置し、むつ市がめざす「地方創生」や「地域の人材育成」に取組むことになった。



9月30日、青森県消費者協会と学校法人青森田中学園は、地域における消費者教育の推進に寄与することを目的に連携協定を締結した。本学では昨年、青森県消費者協会の消費者教育推進モデル事業に教員が参加したほか、青森県消費者協会の協力のもとに消費者教育を学ぶ講義をスタートさせるなど、消費者教育推進に取組んでいる。青森県消費者協会はこれまで県内学校における消費者教育推進事業を実践しており、今後は本学の消費者教育についても、「自ら考え行動できる自立した消費者の育成」に向けた協働・連携が実践・強化されることが期待されている。(地域連携センター長 高山 貢)



COC+ (プラス)

平成27年10月、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」、COC+ (プラス) に弘前大学が申請した「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」が採択された。本事業は弘前大学や青森中央学院大学、青森中央短期大学など、県内9大学1高専が連携・協力して、青森県で活躍する人財の育成や地域への若者定着の促進、大学を核とした地域産業の育成・雇用創出を青森県・県内主要4都市、県内企業・NPO等の「オール青森」で取組むものである。本事業には地元就職率の向上と雇用創出数の具体的な数値目標が設定されており、計画期間の5年間で達成することが求められている。

本学は青森地区のブロックリーダー、むつ地区のサブリーダーとして、COC+事業の教育プログラム開発(共有インターンシップ)、雇用創出連携プロジェクト(ツーリズム関連)の推進を担う中心的な大学として期待されている。また、青森中央短期大学は女子学生のキャリア支援プログラムに参加する。

COC+は全学で取り組むビックプロジェクトであり、現在、地域連携センターを中心に組織体制、コアメンバーの選定を進め、事業開始に向けた準備を進めている。

(地域連携センター長 高山 貢)

子どもねぶた出陣



青森ねぶた祭り参加



青森中央学院大学ねぶた参加

青森中央学院大学

前学期学位記授与式

今年度の秋季卒業生のための学位記授与式は、9月16日に行われました。留学生9名、日本人学生1名、そして大学院生1名が出席し、花田勝美学長より学位記が授与されました。歓送の言葉は、留学生のLIAN PEISANさん（マレーシア出身）によって行われました。卒業の言葉は留学生の林景凡さん（台湾出身）によって、自らの体験を顧みながら自分の言葉でしっかりと述べられました。それは本学の後進の留学生への極めて有益なアドバイスになっており、多くの参加者の胸を打つ感動的なものでした。

10時半から場所をフリースペースに移して、祝賀会が催されました。そこではまず石田憲久理事長から、この学年の留学生・卒業生のひとりひとりについて、思い出と励ましの言葉をかけていただきました。続いて今後の留学生の成長と繁栄を祈念した内山清大学院研究科長による乾杯の音頭を受けて祝賀会は佳境に入りました。その後発表された卒業生のスピーチは、各人各様で、様々な思いが交錯する楽しい雰囲気の中で終了となりました。（学務委員長 小俣 勝治）

「むつ土曜塾」を開講

7月4日、「むつ土曜塾」を開講しました。この塾は、むつ市と本学の連携協定に伴う事業の一環で、小学生と本学の学生が勉強やレクリエーションを通して交流を深める活動です。

今年度は、昨年度の反省も生かし、ベトナム語等のワークショップや短冊作り等、小学生の興味を惹きながら知らぬ間に異文化理解・異年齢交流が進むようにプログラムを作成しました。プログラムの中には、初めて実施するものもあり、「小学生に楽しんでもらえるか」、「上手くいくだろうか」等、不安もありましたが、小学生の笑顔や楽しそうな姿を見て、やって良かったと感じました。

この活動を通し、一から何かを計画することの難しさや楽しさを学びました。また、小学生の目線に立って、考えることがたくさんあることに気づきました。

今後は、これまでの経験を生かし、参加者募集区域や実施箇所を拡大し、地域の子どものための交流の場として「むつ土曜塾」を盛り上げていきます。

（こどもふれあい隊代表
経営法学部3年 松木 大介）



創立記念祭

6月12日に創立記念祭が開催されました。看護学部との合同となって2回目ですが、今年は昨年度より多い参加チームでの開催となりました。当日は借り物競争やリレー等、様々な競技を行いました。なかでも「逃走中」は運営の学友会がハンター(鬼役)として参加して、全員土まみれになりながら楽しむことが出来ました！

最後は全員で集合写真を撮り、花田学長から祝菓のロールケーキをいただいて、大成功で終わりました。大学生活のなかでは、なかなか体を動かすことがないため、日々の勉強等で溜まったストレスを、参加者たちは発散することが出来たのではないかと思います。来年の創立記念祭はどのような競技が開催されるのでしょうか？

この記事を見たあなた！ぜひ来年は参加してみてくださいね！（学友会会長 佐野 将平）



平成27年度国際産直プロジェクト

学生が大幅に参画して実施された「国際産直プロジェクト」によるタイのマハチャノマンゴーの輸入販売事業は、事業開始六年目を迎えて、過去最大となる3トンの輸入取扱を行いました。

青果の販売事業は参加学生の活躍により大好評のまま終了を迎えました。現在は、二次加工商品の開発・展開へシフトし、同プロジェクト参加学生による新たなプロジェクトが開始されています。

中谷 蓮（経営法学部3年）

直接販売等の業務で、消費者に購入してもらうための工夫や、消費者の行動や傾向等を考えることが、経営の勉強に繋がりました。この経験を、学部での今後の勉学に生かしていきます。

シースワン アピラーパー（経営法学部2年）

日本の方が私の出身地であるチェンマイ産のマンゴーを買い求める姿に感激しました。プロジェクトに参加して日本人学生と共に働く事で、友達もできて良い経験になりました。



“できるだし”とともに

私たち吉原正彦ゼミは、短命県返上を目指す青森県の開発した“できるだし”商品が、県民にどのように受け止められ、どこまで浸透しているか、そして産官の協働のあり方を明らかにすべく、青森県と協働して調査研究を行っています。

メーカーから始まり、青森市内の地元スーパー全店舗、店長の調査の連続。調査を続けるうちに消費者の声を直に聞きたいと思い、市内スーパーの協力を得て、試食会と顧客アンケートも行い、さらに、本学のカフェテリアで“できるだし”を使用した料理を提供してもらい、調査を行いました。

このように自分たちで考え行動していくことは楽しいのですが、先方との打ち合わせ等大変なことも多くあります。活動で実感したことは、仲間のモチベーションを維持し続け、組織で動くことの難しさです。しかし半年前よりは仲間との仲も深まり、成長しています。今は、研究成果としてまとめることに努力しています。（経営法学部2年 久留島 麻央）



大地連携ワークショップ

8月4日から7日まで、神奈川県相模原市緑区城山湖周辺地域において行われた大地連携ワークショップに、本学から浅利静香さんと渡邊莉乃さん（いずれも経営法学部3年生）が参加した。今回のテーマは、「首都圏の里地里山をつなごうー今そして未来へー」であった。ワークショップには本学を含む7大学から18名が参加し、参加学生は、城山湖周辺地域でフィールドワークを行った上で、里地里山の継承と発展についての案を地域住民に提案した。

参加学生の感想文からは、初対面であることから生じる困難を乗り越え、協力し合って、最終的には提案をまとめ発表できたことで自信を深め、「ほかの人にも参加してもらいたい」（浅利さん）と願うまでに成長し、その成長を「私たちを成長させてくれた！！」（渡邊さん）ときちんと実感していることが伺えた。また、副次的な効果として、地元青森をふり返る良い機会ともなったようである。



青森県知事選挙における学生団体「選挙へGO!!」の活動

6月7日投開票日の青森県知事選挙に際して、6月3日、本学に期日前投票所が設置されました。キャンパスの中に投票所があると、授業を受けるついでに投票ができ、また、友達同士で誘い合って気軽に行くことができます。

私が所属する学生団体「選挙へGO!!」では、学内で投票を呼びかける啓発活動と、未成年の学生を対象に架空の候補者に投票する模擬選挙を行いました。さらに今回は、3年佐藤淳先生ゼミの学生が、投票立会人や選挙の事務を担当しました。

今回の大学内での期日前投票所では、60人近い学生が投票しました。来年の参議院議員選挙から、18歳選挙権が実現します。今度は全学生が有権者になります。まずは投票に行くところから始めて、少しずつ政治に興味を持ってもらいたいと思います。（学生団体「選挙へGO!!」経営法学部3年 仁和 万里夢）



道の駅での就業体験

本学と全国「道の駅」連絡会との基本連携協定に基づいて、宮崎県の道の駅なんごうと富山県の道の駅カモンパーク新湊において、経営法学部学生が就業体験を行った。道の駅なんごう（8/10~24）には、下山葵君、大澤洋之君、中村祐貴君の3名が参加し、道の駅の様々な業務を体験した。また、利用者アンケート調査や「青森の食」体験イベントを企画・実施し、昨年B-1グランプリでチャンピオンとなったバラ焼きとアップルパイを提供した。

道の駅カモンパーク新湊（9/10~24）には、山館浩樹君、吉田恭一君の2名が参加し、地域の食材を活かした新商品の提案や地域の隠れた観光資源の探査調査などを実施した。さらに、「青森の食」体験イベントを企画・実施し、青森のホタテ貝焼きの実演販売をおこなった。両体験チームのこのような活動は地元新聞にも複数回にわたって取り上げられるなど、青森県のPRに貢献した。



道の駅カモンパーク新湊

道の駅なんごう

台湾での体験型授業

今年度からスタートした短期海外アクトⅠに、経営法学部2年の山内唯人君と齋籐典志君が参加した。8/22～8/31まで、9泊10日の長丁場である。台北市、台南市、高雄市と台湾の主要都市を訪問すると共に、台湾マンゴーの中心地である玉井地域に伺い、農協の組合長とマンゴー輸入に関して懇談した。また、9月29日と30日には、台南文化創意園区において青森フェアを開催した。青森県に協力頂いたDVDや青森の民芸品などを通して青森の風土や自然、文化、食べ物などを紹介し、青森のお酒や海産物などの試飲・試食も行った。台風後の長雨で、体験活動が制約を受けた場面もあったが、夜市や地元のレストランで台湾の食文化を味わい、淡水などの景勝地や国立故宫博物館などの歴史的な遺産を堪能した。



国際交流センターより

平成27年度前学期海外留学プログラム終了

7月23日、前学期海外留学プログラムに参加する学生5名に海外留学奨励費（50,000円）、日本学生支援機構海外留学支援制度に採択されているプログラムに参加する3名に奨学金の受給証明書（60,000円／70,000円）を手渡す授与式が行われた。8名は高い意識を持って海外に飛び立ち、充実した留学を終え無事に戻った。以下、参加学生である。

アメリカ・ペノブスコット語学学校：山館 浩樹（経法3）
タイ・泰日工業大学：竹谷 伊吹（経法3）、田中 寿光（経法3）、木村 直登（経法2）
タイ・モンフォート・カレッジ：仁和 万里夢（経法3）
タイ・ダーラー・アカデミー：沢田 慎也（経法3）
台湾・南台科技大学：大坂 翔太（経法3）、名久井 玲奈（看護1）



青森県産品ローカライズ促進事業

本学に在籍するベトナムからの留学生などの目線や知見を活用し、母国の食生活に適用可能な料理レシピの開発及び青森県産食材の安心・安全の情報発信を行う事を目的とした「平成27年度青森県産品ローカライズ促進事業」を青森県国際経済課から受託し、実施しています。

この事業では、青森県内企業のニーズ調査、海外ネットワークの構築、食と健康に関する現地マーケティング調査、県産食材を活用した料理レシピ作成と情報発信を計画しており、ベトナム人留学生によるプロジェクトチームを中心として、県内企業の調査、生産体験、県産品を使ったメニューの試作等を行っています。



高校との連携

例年、本学在籍の留学生が、高校生の教育・体験活動に協力しているが、以下は今年度の活動である。

☆**青森商業高校商業研究部×留学生**☆

昨年、「観光甲子園」で準グランプリを受賞した台湾人観光客向けの旅行プランの改善に向け、台湾・ベトナム・タイ・マレーシア・中国の留学生がプランのブラッシュアップに協力した。

☆**青森中央高校「あすなろ学」×留学生**☆

総合学習の時間「あすなろ学」で行っている日本と海外の食文化の違いや共通点を研究する活動にベトナムの留学生が協力した。

☆**青森高校スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業×留学生**☆

SGHクラス生徒のグローバルマインド育成協力のため、英語だけで行うプレゼンテーションと1対1でのインタビューに対しての質疑応答などでマレーシア・ベトナム・タイの留学生が協力した。

☆**青森南高校外国語科×留学生**☆

文化祭「南高祭」の外国語科企画にタイとマレーシアの留学生が参加して、母国の紹介プレゼンテーションをし、企画の成功に協力した。

「だし活」に参加して

青森中央短期大学看護学科3年 齋藤 瑛穂梨

私は、アルバイト先で歌を披露し、音楽関係の仕事をしている方に声をかけていただいたのがきっかけでアーティスト活動を始めました。現在までの活動内容は、主に2つあります。1つ目は、青森県が行っている減塩推進事業「だし活」のPRソング「できるだし」をスーパーマーケットや三村県知事の前で披露し、青森県民に塩分削減を呼びかけた活動です。2つ目は“sizu”として曲を配信し、会社にプロデュース活動をサポートしてもらっています。9月5日に1stシングル「証」が配信となりました。就職活動や学業との両立は少し大変でしたが、幼い頃から歌を歌うことが好きだったので、空き時間を最大限に使って趣味として楽しく続けています。来年の4月からは、看護師として働きながら、趣味として歌うことを継続していきたいと思っています。また、今回「だし活」で学んだことを生かし、青森県民に減塩を呼びかけていきたいと思います。



基礎看護学実習Ⅰ（病院見学）での学び

看護学部1年 久慈 綾乃

これまで、病院には病棟や外来などいろいろな診療科があると思っていたが、見学実習を通して、防災センターや中央管理センターなど、多くの部署で患者さんを支えていることを学んだ。

突然の災害に備えて電気や給水の設備を細かく点検し、患者さんが安心して生活するために多くの人が働いていた。その他、臨床検査科や医療情報部、医療連携部などがあった。とくに医療連携部では、地域の医療・福祉施設と連携し、入院・退院のことだけでなく、医療費についても相談を受けていた。各専門の職員がいて相談しやすく、患者さんだけでなくその家族も安心して病氣と向き合える環境を整えていることを学んだ。院内で使う物品の管理をしているSPDという部署もあり、非常にたくさんの物品を管理しているなど初めて知ることばかりであった。病院は、医療従事者だけでなく、いろいろな部署の人の力によって成り立ち、患者が安全に安心して入院生活を送り、治療に臨める環境を整えていることを学んだ。

じいじ・ばあば、パパ・ママに贈る 楽しい子育て・孫育て とりぶるはっぴい 高橋佳子、橋爪直美 著（岩田書院、2014）

最近、「孫育て」が注目されています。核家族化・共働き家族が増加する中で、子育て中のパパ・ママの負担は計り知れないものがあります。そんなパパ・ママにとってじいじ・ばあばは、一番身近で心強く、大切な存在です。しかし、子育ての価値観・方法が時代とともに変化したことで、親子である祖父母と親たちの間でもそのギャップに戸惑いを感じ、祖父母の持つ偉大な孫育て力がうまく活用されていない現状が見受けられます。

この本は、このような現状を背景に開催されました青森県助産師会の「楽しい子育て・孫育て講座」の内容が、イラストや四コマ漫画で分かりやすく解説されています。それだけでなく、子育て・孫育てに関する心温まる体験談やじいじ・ばあばに抱っこされてうれしそうな孫と幸せそうな祖父母の写真も紹介されています。ぜひ、みなさんも子育て・孫育て「とりぶるはっぴい」のコツをつかんで、お子様の心を育てるのにお役に立てください。

（看護学部准教授 高橋佳子）



基礎看護学実習Ⅱでの学び

看護学部2年 天内 里菜

基礎看護学実習Ⅱでは、初めて患者さんを2週間受け持ち、看護計画を立てて清拭や食事介助などの日常生活援助を実施した。

実習を通して、患者さんに合った看護を考える際には、患者さんが辛いことや、これからどのようにしていきたいかを、まず知ることが大切だと学んだ。そのためには、患者さんの一つひとつの発言や体の動かし方、その時の表情をしっかりと観察することが必要である。

また、受け持ち患者さんとの関わりを通して、患者さんにとって家族がいかに精神的支えとなっているかを学んだ。受け持ち患者さんは、1週目、夜間不眠を訴え、話す言葉も聞き取れないほどぐったりとしていた。しかし、夜間にご主人が付き添った朝は、今までで一番の笑顔で迎えてくれ、言葉もはっきり話し、食事摂取量も増えた。不眠には、動悸などの自覚症状だけでなく、室内の暑さや他の患者さんの話し声なども関連していた。患者さんの不快を表情や行動から察して、療養環境を整える重要性を学んだ。

サークルライフ サッカー部

今回はサッカー部を紹介する。サッカー部は選手14名、マネージャー2名で活動している。選手数も少なく、練習環境も整っているとは言えない中で、週に6日熱心に練習に取り組んでいる。サッカー部は、1部リーグ昇格を最大の目標に掲げている。キャプテンを筆頭に、練習後に走りこむなど、少数でも戦えるチームを目指し、青森県リーグや東北地区リーグ等に参加している。

学年を越えて仲が良いチームだが、東北中様々な県へ遠征に行くことでさらにチームワークがよくなっているという。大学の部活は高校までとは違い、自由であり、自己責任である。授業を受けているだけでは経験できないようなことを、部活動を通してたくさん学ぶことができる。そういった経験は就職活動でも生かすことができるであろう。サッカー経験者はもちろん、大学生活で何かやりたい、充実した学生生活を送りたい人はサッカー部を見学してみてはいかが？



(学生記者 相馬 芹香)

私の1冊

経営法学部 井口 義久 先生
『資本と知識と経営者』
亀川 雅人著 (創成社,2006)

本書は学生時代から資本主義社会の意味を考えるのにお勧めです。著者は、「資本主義社会という名称の通り、資本価値を高めるために制度設計された社会なのである。」、「資本の蓄積が社会発展の原動力である。」とされる。

現代は、人の知識・技術が私たちの豊かさ(消費者の生活文化の向上)に貢献する時代です(特許・研究開発費などを含めた無形の資本蓄積がウエイトを高めている)。企業は企業価値を高めるために無形資本による新商品の開発を有形資本に具体化して生み出す商品からの超過利益が国内外の企業間競争の原動力です。

そうだとすれば、企業に就職することは企業に貢献して企業価値を高める人材となる必要があるでしょう。そのために、自分が学生時代になにに取り組めばよいかを考えるきっかけとなるでしょう。本書は難解な書物ですが、将来、資本主義社会の一員としての生活に必要でしょう。是非、読破してみよう。

ゼミ探訪 ~グエン・チ・ギアゼミ~

vol.30

ねぶたの囃子とともに青森に短い夏が訪れました。私はゼミ長の杉山恵也と申します。教育熱心であり、幅広い人脈を持つギア先生のもと、暑い中、青森ならではの視点で何かできないかと討論の日々が続いています。メンバーはギア先生をいれて9人と少ない人数ですが、時には笑い、時には励まし合いながら、これまで激動の季節を駆け抜けてきました。

私達はあくまで青森ならではの物産・産業にこだわって議論しています。就職を見据え、取材先へのアポイントメントでは何度も断られながらも諦めずトライする事を大事にし、青森ならではの事業を行っている企業との交流に努めています。ですがゼミ員がどれだけ探しても、他県にはなく青森にしかないものはうまく見つからず苦労しています。何気なく生活しては素晴らしい物が近くにあっても気付かないことが多いということだと思います。皆さんも青森が全国に誇る物を探してみてください。(経営法学部2年 杉山 恵也)



OB 通信

拝啓 青森中央学院大学様

私は現在、東京都内にある帝京平成大学で事務職員として働いています。帝京平成大学は、帝京大学を中心とした帝京大学グループの1つで、5学部19学科4研究科を擁し、学生数1万人を超える総合大学です。

2年前に就職支援室へ配属となり、学生の就職活動のサポートをしています。ここでは、在学中に経験したインターンシップやeコマース実践で学んだことが、「働くとは何か」を考える良い機会となり、学生の就職指導にとっても役に立っています。

『学生のために』—これが私の仕事のモットーです。毎日、カウンターに来る学生の相談に対し、自分にできる精一杯のサポートを心掛けています。在学中、先生方やキャリア支援センターの皆さまに大変お世話になったことが原点にあります。

後輩の皆さん、大学4年間でたくさんの人と出会い、様々なことに積極的にチャレンジしてください！その経験が視野を広げ、社会を知る機会になります。今後の皆さまのご活躍をお祈りしています。

敬具

(経営法学部第11期生 鈴木 知里)



突撃！

教えて！先生

その7

大泉常長先生に聞く



今回は大泉常長先生にインタビューしました。先生は国際経営論と国際関係論を専門科目としています。特にこれらの分野に関わる危機管理について研究しています。それらの専門科目や、プライベートについてお聞きしました。

— 専門科目を学ぼうと思ったきっかけは何ですか？

大学卒業後、理系出身ながら営業マンとして企業に勤めました。海外営業という舞台で仕事をする中で、経営学や経済学を学ぶことの重要性を感じたことをきっかけに、会社を辞め、大学院に進みました。

— 休日は何をしていますか？

2歳の娘と5歳の息子に遊ばれています。決して若くないので、体力勝負です。

— 学生時代の印象に残るエピソードを教えてください。

留学先のスペインで不幸にも二度のテロに遭遇したことです。車爆弾に列車連続爆破テロ。恐怖で頭の中が真っ白の自分とは対照的に、「テロ

～若者歩き～

Vol.8

今回紹介するのは、弘前市土手町にある"CAFE' HOWL"です。お店はとても居心地が良く、つい長居してしまうほどでした。ルネスアベニュー内にあるということで、利用者は子連れから大学生・年配の方までと、年齢層は広いそうです。また 店内には多くの雑誌や小説が置かれていて、1人で行ってもくつろげる空間でした。そして 店内には店員さんが自ら東京に買い付けに行ったお洋服や、ハンドメイドのアクセサリなどが置かれていて、かわいいものばかりでした。

メニューはフレンチトーストやシェイク、特にこだわりを持っているコーヒーを飲むことができます。品種も季節に合わせた旬なコーヒー豆を取り扱っていて、テイクアウトも可能です。ぜひ、足を運んでみてください！！

(学生記者 佐藤教衣・鳴海しづの)

CAFE' HOWL

営業時間 10：00～19：00 年中無休
有料駐車場有り (飲食で3時間無料)



留学生と語ろう～マレーシア編～

今回はマレーシアの留学生に話を聞きました。

学生(以下学)：日本に留学を決めたきっかけは？

留学生(以下留)：日本の『おもてなし』の文化に興味があり日本に来てみたいと思いました。

日本人の女性も魅力的ですね！青森へ来たのは、自分が田舎好きだったからです。

学：青森に来てよかったことはありますか？

留：自然がたくさんあってよい、というところと、尊敬できる人に出会えたことです。

学：本学の好きなところはどこですか？

留：地域に貢献しているところですね。とても素晴らしいですし、自分も力になりたいです！

学：青森でのオススメの場所がありますか？

留：浅虫のシーフードレストランチキチキです。あそこのカレーは青森で1番だと思います！

学：日本人学生の皆さんに一言お願いします。

留：私達留学生ともしっかりお話をしましょう！たくさんの人と友達になりたいです。

日本人学生の皆さん、ぜひ積極的に留学生とお話してみてください！本学にはチューターという留学生のお手伝いをするグループもあります。興味がある方はそちらにも参加してみてください。

(学生記者 鳴海 しづの)

青森中央短期大学

創立記念運動会

5月30日に創立記念行事として運動会を開催しました。今年は、個性を出せる学友会をめざしました。そこで、チーム一丸となり、ひとりひとりが活躍し楽しめるように学科・クラス別にチームを組み、専攻科を含む9組がサッカー、長縄、障害物競争、リレーで本気で競いました。

運動会を開催するにあたり、学友会会員が中心となり先生方や学生、事務局の方々にご協力をいただいて実行することができました。また、去年の反省を活かし、どうしたらよい運動会になるのか追及して臨むことが出来ました。

今年は、テーマである個性を各学科が存分に発揮し、短大全体で運動会を盛り上げ、色んな意味で最高の思い出になったのではないかと思います。そして、最後に勝ち負けがあっても、みんなが笑顔で終わることが出来たので安心しました。ご協力してくださったすべての皆様！本当にありがとうございました。

(学友会会長 十枝内 康生)



高校生対象講座 キャンパスで作ってみよう

今年度より、高校生が対象の大学生との交流を趣旨とした公開講座が新たに始まり、5・7月のオープンキャンパスに合わせて開催された。

食物栄養学科企画「君にも作れる本格Sweets」では、学生がマンツーマンで調理の指導を行い、参加した高校生は初めての調理に戸惑いつつも、和気あいあいとした雰囲気のなかフレッシュなフルーツを添えたババロアを完成させた。試食時には、「また参加したい、楽しかった」という声が聞かれた。



幼児保育学科は、今年度のミュージカル「アラジンと魔法のランプ」の造形制作の体験として、実際にミュージカルで使用するランプの装飾を行った。好きなランプの色を選び、ビーズやリボン・スパンコールを使いかわいくデザインされた、個性あふれる作品が完成した。本番では、ぜひ自分の作ったランプを見つけて欲しい。



知的障害者サッカーサポートサークル「SSS」勉強会

7月13日、寸劇・疑似体験などを通じて障害を持つ子どもたちへの理解を広げる活動を行なっている保護者の団体「はちのへキャラバン隊」をお招きしての勉強会を行ない、SSSメンバーをはじめ、幼児保育学科の学生23名が参加した。(SSS顧問 松浦淳)



保護者の思いや葛藤、障がいの特性や子どもの感じ方など、本だけでは分からない生の声に触れました。また「障がいを持つ子どもとかわる時のヒントを見つけた」と話す参加者や、保護者の思いや子どもの生い立ちを語る場面で思わず涙を流す参加者もありました。公演の中で「普通に過ごさせて頂く」という言葉があり、その言葉には我が子を思う気持ち、今の世間で言う「普通」がいかに大変か、など沢山の気持ちがこもっていると感じました。「過ごさせて頂く」から「過ごす」に変わっていく日が来るように、私たちができることを考えさせられるとともに、今後の活動で実践したいと思いました。

(SSS代表 幼児保育学科2年 池田 有里佳)

SESSIONS ON THE ARTS 2015 響感アート交流地点 日菓の和菓子のおはなし

本年度のSESSION ON THE ARTSは、初の試みとなる「食」をテーマにした講座でした。当日は、京都を拠点に活躍されている創作和菓子ユニット「日菓」のお二人を講師に迎え、講話と実演を行いました。講師は、伝統の技術や意匠を守りつつも新しい感覚で和菓子を楽しむことをモットーに菓子作りをしており、その制作秘話を作品とともに講演くださいました。実演では「アポロ」「もてた人」「花火」「林檎のツボ」といった、ポップでユニークな4種類の作品を紹介いただきました。特に「林檎のツボ」は今回の講座用に考案されたオリジナル菓子で、りんごは「青森」を、ツボは本講座のコンセプトである「響(共)感」がイメージされていました。短い時間の中で、わずか50gからなる新しい世界を味わうことができ、目にも口にも美味しく楽しい時間を共有することができました。



「だし活しよう」「できるだしダンス」お披露目

スーパーの店内で、「できるできるダシ……」の歌をお聞きになったことはありますか。青森県では、味感を育てる「だし活」事業を展開しています。その一環として、食育講座「だし活しよう」・「できるだし」ダンスお披露目会が7月15日、本学にて開催されました。

食物栄養学科食育サポーター学生による食育講座「だし活しよう」、三村申吾青森県知事からはクイズの出題、また、昆布だしの試飲もあり、会場はとても盛り上がりました。

続いて「だし活」テーマソングを歌う看護学科sizuさんの明るく素敵な声とリズムにのり、幼児保育学科2年生が創作した「できるだしダンス」が披露されました。可愛い「だし活」割烹着を身に付けた附属第一幼稚園児と学生が元気よく踊り、参加者が一体となった楽しく充実したイベントとなりました。また、青森中央学院大学の学生も市内スーパーで販売促進にあたるなど一役買っています。今回、各学科の専門を活かし、且つ連携しながら一体となって事業に貢献できた点が、何よりも良かったと感じております。(幼児保育学科長 大沢 陽子)

食育講座「だし活しよう！」

食物栄養学科では、1年生による食育講座「だし活しよう！」を行い、味覚やだしの種類、健康効果について話をしました。うま味やだしについて園児達に説明するのは難しかったと思いますが、かわいいイラストや手作りのマスコット教材を取り入れるなど工夫し、わかりやすく伝えることができました。園児と保護者へだし活の大切さを理解してもらえるきっかけになればと願っています。



健康いきいきフードフェスタ

元気あおもり健康づくり商店街促進推進事業として、むつ市大湊地区において協同組合むつ専門店会と連携しアピオスを使用した商品の開発・販売と健康セミナーを実施しました。

青森県特産のアピオスはマメ科ですが食感はイモそのもの。インディアンスタミナ源と言われ、高エネルギーで食物繊維やカルシウムがイモ類と比べると豊富に含まれています。食感を活かし、食物栄養学科1年6名がアピオスを使用した冷製スープ、モンブラン、水ようかんを調理、販売しました。

健康セミナーのコーナーでは体組成の計測や、健康モニタリング装置を使用し貧血の指標である血中ヘモグロビン推定値を測定、貧血チェックをしました。

アピオスのいろいろな食べ方や自分の健康チェックをすることで健康と食についての話題提供ができたのではないのでしょうか。



介護福祉士の魅力について

7月3日、現場で活躍している先輩、専攻科学生、専攻科教員による講話「介護福祉士の魅力について」が、授業の一環として幼児保育学科2年生に対して行われた。

卒業生の野土谷諒さん(専攻科第21期生)は、専攻科修了後、大学の通信教育へ編入学し、社会福祉士の資格を取得したこと。介護福祉士として活躍する中での経験談を交えて、介護の魅力について語った。また、学生代表の金田理沙さんは、専攻科を目指した動機、初めての介護実習での経験を通して感じた介護の魅力を伝えてくれた。

今後益々、介護を必要とする方々が増加する。それを支えるのが、介護福祉士である。介護は大変というイメージが多い中、大勢の卒業生が介護現場で活躍している実態を理解することで、良いイメージへ変化するきっかけとなったと考えている。

(専攻科主任 片川 ひろえ)



先生の自分史「興味が職業へ」

食物栄養学科 辻村 明子 先生



小学校の調理実習の料理を家族にも作り、「美味しかったよ」と言ってもらえたことが私の分岐点です。中学校入学後に栄養士・管理栄養士という職業を知り、将来の目標を決めた瞬間でした。国家試験をクリアし管理栄養士になる近道として4年制の管理栄養士専攻を選択。一人暮らしが調理の基礎づくりを後押しし、アルバイトが食品衛生についての実践的な学びの場となりました。

卒業後は管理栄養士とあって食材のことから調理法まで様々聞かれることが多くなり、献立を作成する以前に食に関する幅広い知識が必要と考え、パン教室に通ったり食育指導士や野菜ソムリエ等の民間資格も取りました。オーストラリアやエジプト、韓国へ旅行したことも世界の食に目を向けるきっかけとなりました。食をいろいろな角度から捉えるには様々な情報が必要です。日々新しい情報が発信されている現代において“井の中の蛙”にならないようにアンテナを張りめぐらせる毎日です。

読んで欲しいこの1冊

幼児保育学科 清多 英羽 先生
『捏造の科学者 STAP細胞事件』
須田 桃子著（文藝春秋,2014）

みなさんは、STAP細胞の一連の騒動を覚えていますか？新進気鋭の若き科学者とセンセーショナルに取り上げるマスコミ。ところが、国民の期待感が頂点に達した後に、次々に明るみになるエビデンスの不備、画像の使用に関する疑惑、そして最終的には捏造の判断が下り…。まさに事実は小説より奇なり。多くの方は、当時の記者会見や報道発表からこの騒動を断片的に理解していることでしょう。著者の須田さんは、報道関係者として、騒動前からこの件に関わってきました。関係する研究者達と日常的に交流を持ち、渦中の人物ともコンタクトを取り続けてきました。この騒動の一番の理解者は当事者であるとして、その次に深く洞察しているのはこの本の著者だと思います。

ドキュメンタリー番組を3本くらい作ることができそうなこの本は、特別研究を進めている学生さんにお薦めの一冊です。軽い気持ちでインターネットから文章を拝借しようとしているその「あなた」、その行動が命取りですよ！

研究室を訪ねて Vol.10

～前田研究室～

私たちは、歌が上手でCuteな前田美樹先生のもとで特別研究を進めています。

私達のグループでは、主に表現活動としての手あそびについて研究をしています。うまくいかず悩んだときには、前田先生が的確なアドバイスをしてくださるので、とてもスムーズに進めることが出来ます。また、分からないことは仲間同士で教え合ったり、意見を交換し合ったりと、良い雰囲気で活動に取り組んでいます。疑問に思ったことはその都度調べ、より深く誰もが理解できるような特別研究を目指しています。

実習やミュージカルの練習と忙しい中ではありますが、仲間と協力し合い、自分達が調べたいと思ったことが全て論文や発表の場で、見てくれたり聞いてくれる皆さんに理解して頂けるような研究にしたいと思います。

（幼児保育学科2年 小野美央・奥崎香織）



卒業生も活躍しています

食物栄養学科 44期生 浅虫温泉病院勤務
大間 桃子さん

私は現在、浅虫温泉病院で栄養士として働いています。職場には私を含め3名の栄養士と1名の管理栄養士がおり、私は栄養士の先輩1名と調理業務を担当しています。食材の下処理、配膳、下膳、洗浄といった内容から、徐々に食札セッティング、盛付け、調理業務といった仕事を任せてもらうようになりました。調理員と一緒にいた検収という食材の点検業務も、現在は一人で行うなど、ステップアップしている実感があり、やりがいを感じています。同時に、患者さんの命を預かっているという「責任の重さ」を強く感じ、衛生管理に気をつけ、誤配膳がないよう、確実に安全な食事を届けるために日々努力しています。

学生時代の実習で行っていた内容や先生からの注意、座学で記録していたノートが、現在とても役立っています。後輩の皆さん、将来のためにしっかりと学んでください。



それいけ幼保！探検隊 Vol.2

春になり1年生が入学してあっという間に夏になりました。今回は1年生の造形の授業で行った看板製作についてです。各クラスで幼保の先生方の研究室に看板を設置します。看板を作るにあたり、先生方へ趣味や好きな食べ物などインタビューをしに行きます。中には先生の好きな好みのタイプまで聞いていた学生もいたとか…。インタビューをすることで知らなかった先生の一面を見ることができたのではないのでしょうか。

そこからそれぞれ個性あふれる看板が完成し、先生方の研究室に設置されました。3つの看板が設置され、私達2年生が好きな看板はどれか投票し、見事1位に輝いた看板が現在先生方の研究室に設置されています。残念ながら1位になれなかった看板たちは某先生の研究室に設置されています。どんな看板が1位になったのか見に行ってみては？

（学生記者 池田 有里佳）



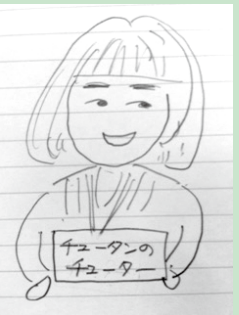
ちょっとしたツブヤキ。 Vol.2

お久しぶりです！今回も勝手につぶやかせていただきます。

ところで皆さんは、図書館のチューターについて知っていますか？チューターは、主にラーニングコモンズスペースで図書館内の設備の使い方について答えたり、館内の環境を整備して、利用者の皆さんにとって使いやすい図書館になるように見回っています。そしてなんと！私はそのチューターの中の1人です！食物栄養学科のチューター達と一緒に交代で頑張っています。チューターは18時～20時の間、週一回ずつ交代で図書館におり、学生の皆さんのサポートをしています。

私達チューターのことを知らなかったという学生さん、見かけたら声をかけてくださいね！赤いエプロンが目印です。気軽に質問があったら聞いて下さいね！

（学生記者 石川 寛子）



1人暮らしのレシピ Vol.9

食欲の秋！秋は美味しいものがたくさんありますが、今回はさつまいもレシピの紹介です！

さつまいものミートソースグラタン（2人分）

【材料】さつまいも中1本・市販のミートソース1パック（2人前）・ピザ用チーズ適量

【作り方】①さつまいもは皮つきのままさいの目切りし、500wの電子レンジで3分加熱／②耐熱皿に①をいれ、ミートソースをかけチーズを散らす／③オーブントースターで焼き目がつくまで焼く

さつまいものデザート春巻き

【材料】さつまいも200g・春巻きの皮・【バターorマーガリン20g・砂糖20g・牛乳20g】→★・小麦粉適量 ※甘めが好きな方は砂糖を増やしてもOK！牛乳を増すとしっとり感UP！

【作り方】①皮をむき大きめのさいの目切りにしたさつまいもを、500wの電子レンジで3分加熱／②熱いうちに潰し、【★】と混ぜる／③春巻きの皮に②をのせ、小麦粉と水で作ったのりで包む／④フライパンに5mm油をひき、中火で揚げ焼きする

（学生記者 三浦 和香）



放課後シリーズ～イラストサークル編～

授業が終わった放課後、皆さんはどう過ごしていますか。課題をしたり、遊びに行ったり…人によって様々だと思います。今回から、放課後の活動について紹介していきます。

【第1回：イラストサークル】

メンバー：食物栄養学科 1年2名・2年3名
活動時間：不定期
活動内容：家などで描いてきたイラストを持ち寄り、イラストを描いている

今回取材したメンバーは、「サークルのポスターを見て」「前部長と交流会で知り合い、話をした」ことが、サークル加入のきっかけだったとか。手描きやパソコンなどを使い、思い思いに活動していることが印象的でした。なんと現在、絵本の挿絵に関するオファーも来ているそうです。今後の活躍が期待されますね。

（学生記者 中村舞七海）



サークルメンバーの作品より

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

附属第一幼稚園 新園舎竣工！



～プレイルーム～



～園舎外観～



～ボルダリング～



～えほんルーム～

～園庭～

園児みんなが待ちに待った、認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園の新園舎が完成し、10月から新しい生活がスタートしました。

新しい園舎は、白を基調とした外観で、内観は園児たちを待ちうけるかのように虹をイメージした柱がそそり立つように配置されています。また、建物の窓を大きくとることで、園児たちが明るい日差しの中で、のびのびと活動できる環境が整っています。

園舎の中心には広い園庭を配置し、各教室から園庭に直接出入りでき、目が行き届き安心して遊ぶことができます。玄関から教室までは高低差を無くし、中央のプレイルームには園児用クライミング（ボルダリング）を設置し、冬季間でも園児がのびのびと遊べるようにしました。

竣工式



新園舎での生活



思い出いっぱい合宿保育

7月16・17日、大学の体育館・グラウンド・各幼稚園・保育園を会場にして、年長さん154名が集まっての合宿保育が行われました。一緒にグループでゲームをしたり、協力して扇ねぶたの色付けをしたりしているうちに、初めてのお友だちとでもすぐに仲良し。みんなで食べたカレーライス、夜空に揺れるたくさんの金魚ねぶた、三思園の皆さんも参加しての花火大会、盆踊りなど、それぞれの場面で元気な歓声が上がり、笑顔がいっぱいでした。

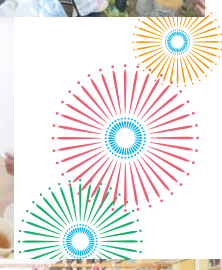
今年は、各園に帰ってのお泊り体験になりました。普段暮らしている園でのお泊まりは新鮮で、いつもと違う雰囲気の中で、お友だちと一緒に過ごした一晩は、忘れられない思い出になったことでしょう。おうちを離れて一泊した年長さんは、ぐんとたくましく成長していました。



はじめまして！
力を合わせて楽しくゲーム。



妖怪ウォッチ：ブシニャン
扇ねぶたの絵が完成



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

ゆかたうん★あおもり2015オープニングイベント

6月27日、青森中央文化専門学校では、青森市新町にて行われた「ゆかたうん★あおもり2015」オープニングイベントに参加した。このイベントは、青森商工会議所が主催し、地域活性化を目的とした事業であり、日本の夏を演出する「浴衣」をイベントだけではなく、日頃から着用し、浴衣を着て協賛店へ来店するとうれしい特典やサービスを受けられる目的で行われた。青森中央文化専門学校の学生は、参加者のゆかたコーディネートとフィッターを行った。また、青森中央学院大学の留学生は、新町商店街のアーケード通りで行われたオープニングパレードに参加し、郷土文化に触れながら青森の夏のおしゃれを楽しんだ。



ドリームタウンALi コラボレーションファッションショー

青森中央文化専門学校は、青森市浜田にあるドリームタウンALiとコラボレーションし、7月25日にドリームタウンALi正面駐車場特設会場にてコラボレーションファッションショーを開催した。

青森県は全国でも有数の、アパレル産業の活発な地域であり、本校では地域との産学連携・地域社会参加型プロジェクト事業として、昨年度に引き続き開催した。今年で2回目となるこのファッションショーでは、企画・運営・スタイリング・構成等の全てを学生が担当した。当日は、ドリームタウンALi内のテナント11店舗からの衣装協力をいただき、トレンドとオススめを取り入れて学生がスタイリングした衣装を、108AOMORI GIRLのモデルがウォーキング形式で発表した。ショッピング等で賑わう人々の注目を受け、ショーは成功に終わった。



(写真撮影：青森中央経理専門学校 写真サークル)

「職業実践専門課程」申請に向けて

専修学校の専門課程であり、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識、技術及び能力について組織的な教育を行う「職業実践専門課程」の認定に向け、専門的な企業の実習・演習等の連携が始まっている。経理事務コースでは、柏秀人税理士事務所に勤めている卒業生が来校し、電子会計の授業を行った。医療事務コースでは、医療法人白鷗会まちだ内科クリニックにて、医事コンピュータ、電子カルテの実務を行った。観光コンシェルジュコースでは、公益社団法人青森観光コンベンション協会にて、案内所等での観光実務を行った。



青森県職業体験フェア2015

3月18日、6月12日、6月16日の全3回、青森県専修学校各種学校連合会主催による「青森県職業体験フェア」が開催された。

青森市、弘前市、八戸市の3会場で開催され、青森県内にある各専門学校のブース内で専門的な職業を体験できるフェアである。また、小学生から参加もでき、早期段階で自分のなりたい職業を体験し、将来の職業選択の参考にしてもらうために開催されている。青森中央経理専門学校、青森中央文化専門学校では、各コース・専攻から学生も参加し、レセプトコンピュータを使ったカルテの入力、ショップご協力によるスタイリスト体験等を行った。



経理発信情報 Vol.15 ～学生パソコン講座 in 青森県総合社会教育センター～

8月27日・28日の2日間にわたり、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を実施した。27日はWordを使用してハガキとホームページの作成を、28日はExcelを使用してカレンダーと住所録の作成をそれぞれ行った。

学生がインストラクターとなり、参加者との会話を交えながら操作の仕方をレクチャーする本講座も今回で4回目の実施となり、今回初めての試みとして、メインインストラクターを立てず、学生と参加者とのマンツーマン方式でレクチャーを行った。参加者からはご好評を頂き、また、学生にとっても貴重な経験となった。



おススメ図書 vol.13

青森中央文化専門学校 曾我 武 先生
『服を作る モードを超えて』
山本耀司 著、宮智泉 聞き手(中央公論新社,2013)

世界に影響を与えたファッションデザイナーである山本耀司のこの本を、彼の母校である文化服装学院へ向かう新幹線の中で読んだ。1981年、モードの頂点と称されるパリコレクションにデビュー。当時、日本のファッションは世界に見向きもされない時代。西洋のルールに反した山本の洋服は賛否両論であった。しかし自分を貫き、洋服の持つ力を見せつけ続けた。やがてマエストロとも称賛されるが、今なおタブーへの挑戦を続けている。

現在、手頃な価格でトレンドを盛り込んだファストファッションが主流となり、洋服に対するアンチテーゼなど無い時代になってしまった。それに加え、すぐに情報も収集出来る便利になった世の中で、必死に考え、ものごとを突き詰めていくこと、何かに思い焦がれる機会もだんだん失われているように感じる。知らず知らずに忘れてしまっている何かを再確認出来る一冊である。

ファッション通信 vol.13

～ My Accessory ～

季節は、すっかり秋となりましたね。秋の装いは、小物使いがポイント。今季はチェックストール・つば広ハット・ビジュアアクセサリーなどの小物が注目されています。トレンドでもある無地のハイネックニットと白パンツというシンプルなコーディネートにプラスするだけで、お洒落度が増します。トレンドカラーのワイン・ネイビー・グレーを取り入れると、更に今年らしい秋ファッションになりますよ。足元は、パンツをロールアップし、人気のサイドゴアブーツを合わせました。

北国は秋が短いですが、お洒落をしてレジャーも楽しみましょう。



(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.25

青森中央経理専門学校 医療事務コース 平成25年度卒業
日本水道設計社青森営業所 勤務
阿部 麻友さん

私は青森中央経理専門学校を平成26年3月に卒業後、青森市内にある株式会社日本水道設計社で経理事務の仕事をしています。

仕事内容は、電話対応、伝票・帳簿の作成、退勤管理などで、今まで学んできたことを活かせる職場なので、充実した毎日を送っています。働いてから実感したことは、言葉遣いやマナーの大切さです。社会人として当たり前身にしていなければならぬことですが、入社したての頃はわからないことが多く、苦勞をしました。専門的な知識はもちろんですが、言葉遣いやマナーもとても重要です。学生のうちに、身につけておくことが大切だと思います。



学園共通

ラーニングコモンズ学生チューターの整備

本学図書館のラーニングコモンズ（LC）スペースには、常駐スタッフがおりません。そのため、これまで皆さんはLCで困ったことがあった時にも、入館ゲート横のメインカウンターに行く必要があり、その場ですぐには相談できませんでした。また、目が届かない環境であることから、大声で騒ぐなどマナーを守れない学生が現れ、それに対して他の学生から苦情も出ていました。

このような状況を改善するため、6月より放課後18～20時の間、学生チューターをLCに配置しています。ここでのチューターの役割は、学生生活を送る上での相談に応じることと、皆さんが学修しやすい環境を整備することです。チューターの学生4名は、いずれも青森中央短期大学で司書課程を履修している2年生です。司書課程では、調べ物などの相談へ応対するスキルをみがきますし、チューター実施前には研修も行っています。どんなことでもお気軽にご相談ください。

（食物栄養学科助教
下山 佳那子）



横内地区まちづくり計画

横内地区の地域住民・団体・大学生により設立された「横内地区まちづくり協議会」は、横内地区を「豊かで活力ある住みよい地域」にするため、3月のキックオフミーティング以降、3回のワークショップ、横内地区街歩き探検を実施し、「人と人がつながる やさしいまち・よこうち」を基本コンセプトとした横内地区まちづくり計画を策定した。計画は5つのテーマ、①特色のある地域資源を活かした魅力あるまち、②地域みんなの交流を深めるまち、③文教地区の特性を活かした人づくりのまち、④高齢者や障がい者にやさしいまち、⑤環境にやさしく、雪と親しむまちがあり、年度事業が計画されている。

横内地区にキャンパスがある本学は、計画の中心メンバーである。9月の翔麗祭には住民が参加、地区の特産品である“がっぱら餅”をPRした。また、10月の横内センター祭りには本学留学生が参加、異文化交流も行われた。今後、健康相談、スポーツ交流、料理教室等、学生ボランティア活動等が予定されている。

（地域連携センター長
高山 貢）



学生選書ツアー開催

6月27日、学生選書ツアーを開催しました。学生選書ツアーとは、学生の皆さんが街の書店で本を手に取りながら、図書館に置いてほしい本を選ぶ企画です。今回は、成田本店しんまち店に伺いました。学園の各設置校から計14名の参加があり、午前中は本を選び、午後はPOPを作成しました。POPは、店頭に置いたり、商品につけたりする広告を意味しますが、ここでは、本と一緒に図書館に展示し、本の魅力を他の学生に伝えるものをめざしました。

学生目線で選ばれた本に興味をお持ちになった方は、どうぞ図書館に足をお運びください。また、参加者からは、「今日をきっかけに、もっと本を読みたくなった」「参加しなかった友人にも、是非この企画を勧めたい」「今後もこのような企画があればいいと思う」と大変好評だったため、次回以降の実施も検討していきたいです。

（食物栄養学科助教
下山 佳那子）



横内まつり参加

8月16日、青森市横内にある常福院にて、本学が連携協定を結んでいる横内町会による「横内まつり（盆おどり）」が開催され、青森中央学院大生が賑やかしとして参加しました。日本人学生と留学生が協働して出店し、タイ料理等を振舞ったほか、ねぶた囃子方サークルが囃子演奏を行うなど、祭りの盛り上げに一役買いました。

留学生が調理したタイ料理のガイヤーン（鶏の照り焼き）とパッタイ（タイの焼きそば）、学生団体青森中央学院大学雪下桜乃会が販売する、タイ産マハチャノマンガーを使用したジェラートなど、一般的なお祭りとは一味違ったバラエティ溢れる出店メニューはどれも大好評で、食を通じた異文化交流により、町会の皆さんとの一層の親睦を深める事ができました。

学生達は盆踊りにも参加し、慣れないながらも町会の皆さんを見よう見まねに踊るなどし、青森の短い夏を満喫する事ができました。



学生公演開催！

Bunka Fashion Live 2015

今年度のテーマは「Close yet far～in the not so distant future～」。近いようで遠い、相反する二つの感覚。人間が持つ曖昧さは未来に何を描くのだろう。様々なイメージからデザインを膨らませ、青森中央文化専門学校の新しい時代を築く制作衣装にご期待下さい。また、共催企画としてファッション甲子園入賞作品および県内高校最終選考会へ出場した衣装をブース展示する予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



ファッションショー



ミュージカル

開催行事案内

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●市町村長リレートーク

会場：学術交流館

日 程	テーマ	講 師
11月18日(水)	13:00～14:20	未来を切り拓く挑戦者たちへ
		むつ市長 宮下 宗一郎 氏

●教育フォーラム「人口減少が続く地域社会における学校教育の在り方を考える」

会場：学術交流館

日 程	内 容・出席者
12月 5日(土) 13:00～16:30	基調講演「人口減少下の地域社会における学校教育の課題」 講師 国立教育政策研究所総括研究官 屋敷 和佳 氏
	実践報告&パネルディスカッション「取組の現場からみた地域社会における学校教育の現状と課題」
	パネリスト 「地域とともにある学校づくり」とコミュニティ・スクール 秋田県由利本荘市教育長 佐々田 亨三 氏 財政面から見た学校統廃合の実情を中心として 岩手県岩泉町教育長 三上 潤 氏 小中一貫教育への取組みを中心として 青森県三戸町教育長 友田 博文 氏
	コーディネーター 経営法学部教授 高橋 興

青森中央短期大学

●福祉・介護人材参入促進事業

日 時	テーマ	会 場
11月15日(日) 15:00～17:00	・盲目のシンガーソングライター 板橋 かずゆきコンサート ～あきらめない心、強く生きることそして分かち合うところ～ ・「手話で語る“むかし むかし”」 手話：半澤 啓子 氏 語り部：穀田 千賀子 氏 ・シンポジウム「出演者と福祉について語りあおう」	下北文化会館
11月29日(日) 13:00～15:00	・「手話で語る“むかし むかし”」 手話：半澤 啓子 氏 語り部：穀田 千賀子 氏 ・「盲導犬がやってくる！！」 おはなし 佐藤 ちえ子 氏・内田 初江 氏 ・シンポジウム「出演者と福祉について語りあおう」	平川市生涯学習センター
12月13日(日) 13:00～15:00		青森中央短期大学

青森中央経理専門学校

●公開講座

会場：学術交流館

日 時	テーマ	対 象
11月21日(日)	10:00～12:00	学生によるパソコン教室 年賀状作成
		一般



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、2月発行予定の95号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■95号応募締め切り：12月22日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第94号

発行日：2015.11.10

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

松島 正起

木村 貴子

坪谷 輝子

岩葉 悦子

中田 尋美

加藤 澄

浜中 幸美

佐藤 紋子

八木橋ひろみ

高橋 晴美

学生記者

相馬 芹香

佐藤 教衣

中村舞七海

池田有里佳

鳴海しづの

三浦 和香

石川 寛子